



おの たら お
小野 寺 隆 夫
(奥和会)

●今、子どもを取り巻く環境は ●「子ども夢基金」の創設を

質問 このたび少子・人口対策

室において「子どもの権利に関

する実態・意識調査」が、また、

教育委員会においては、「児童

生徒の生活・家庭学習習慣に関

する調査」がそれぞれ実施され

た。これらの調査の結果、そこ

から見えてきたものは何か。ま

た、全市的な子ども対策の実施

をどのように考えているか伺う。

市長 「自分のことが好きだ」と

する自己肯定感は年代が上がる

につれて低下している。また、

4人に一人は、大人に対して自

分の思いを言うことが出来ない

としている。子どもを取り巻く

環境については、部局横断的な

対策が必要と考えている。

教育委員長

帰宅後のインター

ネットの利用やゲーム機により、

起床時刻、就寝時刻など基本的

生活習慣が悪くなっている傾向

にある。児童生徒の生活の中で

は、ゲーム機や携帯電話を含む

インターネットの利用など、情

報モラルが課題である。今年度

新たに、児童生徒や保護者を対

象に携帯電話などの利用につい

て調査し、実態の把握につとめ

情報モラルの向上につなげてい

きたい。

質問 社会全体で子どもたちを

支援していく体制づくりとして、

市民協働の「奥州市子ども夢基

金」を創設してはどうか。

市長 基金の調達や運用方法に

課題はあるものの、先進事例な

ども研究しながら、今後の検討

とさせていただきたい。



子どもたちに夢を(小山東幼稚園運動会より)



かとう きよし
加 藤 清
(無会派)

●農業振興対策の課題を問う

質問 今年度の重点施策の取組

み状況と、課題対策について伺

う。また平成27年度以降の振興

策の基本的考えについて、今年

度国より新たに示された、規制

改革にともなう農地中間管理事

業の実施に向け、担い手は必要

不可欠と思われるが、担い手の

育成、確保の具体策は。

市長 今年度は主に圃場整備事

業の推進、担い手育成支援、地

域ブランドの推進等に取組んで

いる。また、地域6次産業化ビ

ジョンを作成し各産業分野連携

のもと、戦略的奥州ブランドの

構築を行った。世界遺産である

平泉文化にちなみ「食の黄金文

化奥州」の実現に13のトライア

ルプロジェクトを進めた。平成

27年度以降の方針については、

国の農政改革元年であることか

ら、農家の急激な変化に対応し

ながら生産者団体と連携し、売

れる米作りなど本市の得意分野



作柄は良好、26年産米検査

緩和につとめる。また、多面的

水田活用をさらに進めるととも

に集落営農組織の法人化を進め

生産性の向上を計る。中山間地

域においては多面的機能を含め

た地域の実態に促した対策を行

う。マスタープランについては

見直しを行うと共に、農地中間

管理事業を含め、関係機関と協

議を重ね、重要施策として取組

む。新規就農者の確保育成は地

域農業の存続にとって極めて重

要な課題であることから、青年

就農給付金等、あらゆる支援制

度を活用し、農業後継者の育成

確保に努める。